

# 水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JAとまこまい広域

宮本 義彦



ハウス内全体の様子 5.10



慣行区の様子 5.10



試験区(播種前灌水)5.10



試験区(播種後灌水)5.10

## 試験目的

薄型こめパワーマットの実用性確認

## 試験作物 及び品種

水稲

## 試験資材 及び数量(規格)

薄型こめパワーマット 30枚

## 慣行資材

培土

## 栽培方法

播種日	定植日
慣行区:4月19日 試験区:4月19日~21日	慣行区:5月22日 試験区:5月22日~23日

## 資材使用期間

4月19日~

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

試験品(こめパワーマット)については、①播種前かん水、②播種後かん水の2パターン行った。

①ではやや重くなってしまったが、②では体感半分程度の重さで、非常に軽く作業性が良かった。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

5月10日時点では、試験区の苗の方が1cm程小さかったが、移植時には慣行区が大きくなりすぎるほどであったので、生育に問題はなかった。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 土苗に比べて育苗箱が軽くなるため、作業性が向上する。

【問題点】: 育苗時の水管理や温度管理が土苗と異なるため、慣れるまで注意が必要。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

問題なし。

## モニター感想

試験品で播種前のかん水をする時、育苗箱をハウス内に設置する際、重くなってしまったため、より省力化できるよう、①播種前かん水、②播種後かん水の2パターンで試験した。

播種前後のかん水で生育に差はなかったことから、播種後のかん水で良いことが確認できた。

また、5月上旬では試験区の苗がやや小さかったが、今年は育苗期間は好天に恵まれていたため、移植時には慣行区の苗が大きくなりすぎてしまうほどで、最終的にはちょうど良かった。

移植時は試験苗の滑りが悪かったが、機械の調整をするまで手が回らなかった。

## JA担当者の感想(早来 資材燃料課 溝口課長)

1戸あたりの水稲面積は増加傾向にあるため、こめパワーマットのような省力化資材は需要が拡大すると考えられる。

今後、他にも省力化資材等あれば、試験・推進等を行っていきたい。

## 今後の使用について

育苗は問題なかったが、移植時に課題があるため要検討。

1 栽培システム

2 敷設システム

3 製地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 除菌資材

9 ICT機器

10 その他